

2025
4



特別展「パウル・クレー展 創造をめぐる星座」関連
こどものイベント

「絵を切って貼ってもういちどつくろう！」

■開催日時：2025年4月26日(土) 10:30～12:30

■参加者：こども13名、保護者10名

■対象：小学1年生～中学生

■場所：アトリエ2, 企画展示室

■概要

クレー展に出品される作品の中から、一度描き上げた作品を切断し再構成して仕上げた“切断作品”に注目し、制作と展覧会鑑賞を行いました。

■1 オリエンテーション

プログラムのはじまりは、本展を担当する相良学芸員のクレーの作品に関するレクチャーです。スクリーンに映し出された作品画像を見ながら、クレーの作風や表現技法について解説がありました。「色彩に注目されることの多いクレーですが、実は実験的な手法でも知られています。」今回の展示では、クレーだけでなく同時代に活躍した他の芸術家の作品も展示されています。クレーの作品やその手法にも注目しながら、他の画家たちの表現もあわせて楽しみましょう！



相良学芸員のレクチャー

◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

・どんなふうにはるのかをかんがえたのも、たのしかったです。クレーさんは絵を切ってはるということを知ったのがすごいなと思いました。（小4）
・クレーさんのたくさんのさくひんがあって、ぜんぶにてたけど、一つ一つちがうのがおもしろかった（小4）

・制作だけでなく、学芸員の方からの解説を聞くことができて良かったです。このような鑑賞ツアーがあれば参加したいです。（保護者）
・作品をつくる子どもの真剣な表情が印象的でした。鑑賞の説明も学びが多く勉強になりました。（保護者）

■2 切って貼ってつくる！

クレーの表現をヒントにした制作活動は2部構成。まずは八切り画用紙に、画面いっぱいに自由に絵を描いてもらいました。色と線を自由に使った抽象的な絵、動物や花などを丁寧に描いた具象的な絵など、こどもたちは思い思いに描画を行いました。絵が仕上がったところで次のステップへ。「では、いま描いてもらった絵を、はさみで切ってもらいます」と声をかけ、エドゥケーターが前でデモンストレーションを行いました。描いた絵を自由にはさみで切り、それを新たな構成で貼り直す作業に一瞬戸惑いを見せたこどもたち。しかし、しばらくするとスムーズにはさみを入れ、構成を楽しむ様子が見られました。



制作の様子

■3 展覧会の鑑賞

制作後には、みんなで展示室へ。相良学芸員解説のもと、クレーの作品を3点、他作家の作品を1点鑑賞しました。当時の時代の流れや思想、戦争の影響を受けて変化したクレーの作風や色づかひの紹介とともに、同時期に活躍した他作家の作品も一緒に見ました。展示室には、クレーが実際に「切断・再構成」の手法を用いた作品も紹介され、先ほど同じ体験をしたばかりの参加者は、ときおり学芸員に質問を投げかけながら、興味津々で作品を鑑賞していました。



鑑賞時の様子

■4 相互鑑賞、ふりかえり

最後に制作で描いた絵の紹介や、切断・再構成の際に工夫した点、制作を通じて感じたことなどを発表してもらいました。「お花の絵を描いたあと、切ったときにお花の赤い線がつながるように貼りました」と語った参加者は、切った絵の上下左右を反転させながら、もとの輪郭線を意識的につなぐように構成していました。ある参加者は、四角い画用紙をあえて斜めに貼り直すことで、作品にリズムが生まれることに気づき、「こんなふうに形を変えるのがすごく楽しかった」と教えてくれました。今回は、自分の描いた絵を「切る」という、ふだんなら少し勇気のいる大胆な手法に挑戦しましたが、切る・貼るというシンプルな操作の中に、形や構図が変化する面白さを見いだし、てくれたら嬉しいです。



参加者の発表

□担当学芸員からのコメント

今回のイベントでは、クレーが第一次世界大戦時に、自作にはさみを入れ切断しそれらのパーツを再構成して創作するという「切断作品」を参加者に体験してもらいたいと、最初はそのことを具体的には告げずに絵を描いてもらいました。その後「では実際に作品にはさみを入れましょう」とのエドゥケーターの発言に一瞬時が止まったかのような緊張感が走ります。「せっかく一生懸命描いた作品にはさみ…」と泣いていた参加者もやがて覚悟し切断後、さまざまに組み合わせて多彩な作品を再度生み出していました。クレーの創作の奥義ともいえる心境を実感できたのではないかと担当者は非常に喜んでおります。（相良学芸員）